匠の心と技が息吹く南丹地域文化再生プロジェクト

特定非営利活動法人京都伝統工芸活動支援会「京都匠塾」

地域と連携しながら若手職人のものづくりを支援する

現在の伝統工芸にとっての課題の一つは後継者問題です。京都伝統工芸専門学校（現京都伝統工芸大学校）の設立などにより、後継者の芽は数多く芽吹いていますが、その芽が育つ土壌ともいえる「活躍の場」は限られているのが現状です。

「京都匠塾」は、こうした背景のもと、職人を目指す方々に対して、作品の販路開拓や発表の場の提供、活動舞台の拡大、伝統工芸に関する情報発信やネットワークの構築などを通じて、新しい「職人の芽」が活躍できる土壌作りをしている団体です。

現在の主な取組として、南丹市園部町にある共同工房「町家工房息吹（いぶき）」と京都市東山区の「若手職人工房いぶき東山」を拠点とした創作・展示・販売活動や各地でのほか、将来を担う子どもたちに伝統工芸に親しみ、理解を深めてもらう体験教室の開催、学校や地域での「ものづくり教室」への講師派遣など、新たな活動へ連携した作品展示など、新たな活動への挑戦が続いています。

また、伝統工芸品があることの教育・啓発や地元商店街と大きな「感性価値」を持つものづくりをしています。

〈写真説明〉上段：製作風景　中段上：いぶき東山　中段下：町家工房息吹
下段：町家工芸市

DATA

＜連絡先＞
TEL 0771-68-1731　FAX 0771-68-1732
e-mail　info@takumijuku.org
HPアドレス　http://www.takumijuku.org/
＜代表者＞
高橋博樹（理事長）
＜設立時期＞
平成１８年６月３日
＜活動内容＞
共同工房の設立、アンテナショップの開設、工芸品の展示販売イベント・定期市の開催、工芸体験教室の開催、工芸職人の講師派遣・講演会の開催

▲ひすとりー

H18. 6. 3	団体設立。
H18. 9月	NPO法人認証。
H19. 3月	旧山陰街道に面して建つ築230年の町家を再生した町家工房「息吹」(ibuki)を南丹市園部町本町通商店街内に開設。
H19. 7月	若手職人工房「いぶき東山」を京都市東山区に開設。
H19. 12月	町家工房「息吹」において「第1回町家工芸市」開催(以降、定期的に開催)。
H20. 6～9月	ﾎﾃﾙｸﾞﾗﾝｳﾞｨｱ京都にて展示会開催。
H20. 6. 19	京都府の「新世紀かがやき交流賞」受賞。

▲代表者いんたびゅー

特定非営利活動法人
京都伝統工芸活動支援会「京都匠塾」
理事長
高橋博樹さん

○発足のきっかけは？

大学、大学院で建築を学び、神戸の都市計画事務所に就職。阪神・淡路大震災の復興事業などに携わってきましたが、子どもの頃からやりたかった「ものづくり」の魅力が忘れられず、京都伝統工芸専門学校（現大学校）に入学しました。

専門学校では、京指物（きょうさしもの）を学ぶかたわら、地域と学校との連携事業なども積極的に手がけました。

そうした中で、専門技術を身につけて卒業しても伝統産業の世界には自分たちが活躍できる場が少なく、かつ伝統産業の仕事だけでは生活していくのが難しいという現状がわかってきました。

そこで、自分のような者たちの活躍の場の拡大を目的に、平成十八年六月に「京都匠塾」を設立し、同九月にはＮＰＯ法人の認証を受けました。

○現在の活動内容は？

「京都匠塾」には、現在、京都伝統工芸専門学校（現大学校）の卒業生を中心に百名程度の技術者が在籍しており、私を中心に約十名がマネジメントを行っています。南丹市園部町の町家を借りて工房「町家工房　息吹」や、京都市東山区に町家ギャラリー「いぶき東山」を開いたりして、職人が仕事をできる場所、多くの人にものづくりに接してもらえる場所の拡大に努めています。イベント出展などの依頼も多く、こうした組織が実は待たれていたのではないかと考えています。

ものづくりの職人を志す人たちを取り巻く環境には厳しいものがありますが、わが国のものづくりの文化を守り、しっかりと継承していくためには、この業界を目指す人たちに夢を持たせることが大切です。

こうした中で私たちの役割は、今まで離れていたものをつなぎ、不足していた説明を加え、人と人とを結びつけることによって、ものづくりで「業界づくり」「まちづくり」「ひとづくり」を行うことだと思っています。今後、行政とも協働しながら、ものづくりの素晴らしさを多くの人に理解していただく活動を展開したいと考えています。

★広域振興局も協働しています！

旧山陰街道の商店街で開設された「町家工房息吹」は、ＮＰＯ法人「京都匠塾」の活動拠点であるとともに、地域の方々の交流の場ともなっています。

南丹広域振興局では文化、教育、福祉など様々な分野で活躍しているＮＰＯや地域団体・人材のネットワークの強みを活かした地域づくりを目指しています。

京都伝統工芸大学校や府南丹教育局などと協働した「南丹美術工芸パートナースクール事業」・「次世代へつなぐ南丹地域文化フォーラム」の実施、更には、障害者の陶芸教室や作品の展示販売の場づくりなど、大学等の「知」を豊かな地域の創造に活かす取組や、ほんものの「技」で育まれた伝統文化を次世代に継承し地域の活性化に活かす取組などを進めています。

▲とぴっくす！

○子どもたちを基点に「ものづくりのまち南丹市」を発信

「京都匠塾」では長期的な視点に立ってのものづくり文化の継承を目指し、将来を担う世代にものづくりの楽しさ・すばらしさにふれてもらおうと、子どもたちを対象とした工芸教室を開催されています。

平成二十年度は、府民の森ひよしを会場に六月から九月にかけて合計十回の教室を開催。木工四回、木彫三回、陶芸三回をすべて終了すると、「箱膳」とその中身となる自分の食器類一式が完成するというユニークな企画です。

このほか、小・中学校などへ職人を派遣し、工芸体験などを行う事業も手がけており、将来的には「南丹地域の子どもたちは誰もがものづくりが得意」と誇れるような地域の特性づくりを目指しています。今後、「ものづくりのまち」づくりを進めている地元南丹市をはじめ、京都府など行政との協働が広がることで、更なる展開に期待が集まります。